

「ポストコロナの鉄道事業が目指すもの」

日時：7月11日(火) 16:50-18:35 (5限)

場所：国際学術総合研究棟4階

SMBC Academia Hall (対面授業にて開催)

公共政策大学院では、「国際交通政策」の授業において、下記のとおり、東日本旅客鉄道株式会社 取締役会長 富田哲郎氏からお話を伺います。

1987年の国鉄分割民営化を経て誕生したJR東日本は、社員の懸命な努力と景気拡大の局面にも支えられ、順調な経営を実現してきましたが、こうした経営環境を一変させたのがコロナ禍であります。感染拡大防止の観点からテレワークの推奨や移動自粛などにより、鉄道利用はかつてない減少幅を受け、民営化後初めて赤字を記録しました。コロナ禍によって生まれたこうした変化は、元には戻らないと見込まれます。こうした変化を奇貨として、社員の活躍のフィールドを拡大し、エンゲージメントを向上させ、新たな挑戦を通じて変革を進める企業経営を考えていきます。

履修登録者以外の本学学生の参加を歓迎いたします（使用言語：日本語、本学学生以外の一般の方は参加出来ません。）。



**東日本旅客鉄道(株)
取締役会長
富田 哲郎 氏**